

「史料紹介」「徳島藩板野郡代手代他宛齋田村法泉寺奉申上覚控」

須藤 茂樹

法泉寺は徳島県鳴門市撫養町齋田に所在し、照島山と号し、浄土真宗本願寺派に属している。慶長年間に播磨の守護職赤松則村の一族と伝えられている赤松祐教（一六三〇年没）が阿州鳴門脇（鳴門市撫養町）に来て草庵を開いた。現在の本堂（七間四面）が建てられたのは文化三年（一八〇六）

で、順了（十代目の住職・一七九七年没）と次の住職辨了（一八四一年没）の二代にわたっている。境内には、当寺第五代の住職秀円（一七一一年没）の時に建てられた八角輪藏様式の経蔵があり、鉄眼版一切経が収められている。また、法然上人が念仏停止のお宣旨により流罪となり、讃岐に行く途中に上人の前に現れた鬼と与えたと伝えられる六字名号などが保存されている。

寺宝調査をさせていただいた際に、六字名号をはじめとする掛軸などとともに、古文書も調査することができた。量的には多くはないが、諸堂の建立や寺宝の開帳など法泉寺の活動に関する重要な史料が多く含まれている。これらの古文書群を「法泉寺文書」と称したい。

本稿では、徳島藩板野郡代手代などに宛てた法泉寺の奉申上覚（上申書）を写した控を紹介する。綴じ紐がなく、前欠・後欠の可能性がある。縦二四・八cm、横三四・二cmで、二五紙（一紙を白紙で加え、表紙として用いる）からなる。

内容については、別稿で扱いたいだが、法泉寺は由緒により格上げを徳島

藩に申し出ており、由緒として一切経を調達し蜂須賀家政の位牌と共に供養する法事を行ったこと、その後に経堂と輪藏を造り、併せて宝物の開帳を行ったことなどが記されている。

（一紙）

奉願上覚

一去ル宝永三戌年郡御奉行長谷川新右衛門様御勤之砌、私先住教圓儀、於當寺二一切経安置仕度就願望、累年諸国経廻勸化仕、宿願相叶一切経全部相調候儀、偏ニ御守護御恩不浅仕合奉存候而、為可奉報御国恩、其節秀圓御願申上、
太守様奉祈御武威御長久宝裕、経前ニ奉建御世牌、且亦御先祖様御累代之御位牌並御先達之御前様方位牌共同経前ニ安置仕、為増進御菩提長日御経相勤申度奉存、御世牌・御位牌御免被為下度奉願候處、被為達御上聞御趣ニ而奉願通御免被遊候付、三尊之御前ニ太守様御世牌御名乗書取、並奉安御先御代々

「史料紹介」「徳島藩板野郡代手代他宛齋田村法泉寺奉申上覚控」

(二紙)

御位牌招請頭密二宗之僧侶凡三七日中一千

有餘之供養仕佛事満座仕候故、只今ニ安鎮仕、

朝夕勤行無怠慢相勤居申候、私儀経堂輪藏

造営仕度、年来宿願仕候得者、時節至来不仕打過

申達處、此度自門徒之助力ニ金経藏輪藏ト茂

建立仕候、明春諸願成就之法事仕度奉存候、

御大切之御世牌・御位牌轉輪藏奉納御移来、

子二月十五日開白仕、三七日中法事執行仕度奉存候、

尤當寺ニおいて宝物所持仕候、此度三七日法事後

十日右宝物為結縁開帳仕度奉存候、依之先年

千僧會之砌、十方百姓之檀越施入志之人數多、

過去帳相記御座候得者、眷属之方江披露、殊ニハ又

為結縁御城下ニおいてハ新町橋、佐古町、二軒屋口、

(三紙)

古川口、外ニ撫養四軒屋町口、大寺道辻、灘道筋、右七ヶ處

高札ヲ以法會執行仕旨、當冬ニ披露仕度奉存候、並

右供養ニ付、當寺ニ諸勸進奉加指出不申趣茂相記

申度奉存候、乍恐奉願通被為 仰付被為下候ハハ、難有

仕合ニ可奉存候、以上、

板野郡斎田村

寛保三年亥十一月十日

法泉寺

坪内庄兵衛様御手代

笹倉善兵衛殿

右法泉寺奉願通被為 仰付被下候ハハ、私共追難有

仕合ニ可奉存候、以上、

斎田村庄屋

亥十一月十日

市兵衛

(四紙)

同村五人組

李兵衛

同

市左衛門

同

清次郎

同

重右衛門

笹倉善兵衛殿

右之通、御郡代所江奉願上處、御鏡之上奉願通、

被仰附下ニ付、写仕指上申候、以上、

斎田村庄屋五人組

寛保四年子四月十日

塩方御代官様御手代

小野進右衛門殿

(五紙)

右之通相窺今日印形御取、徳嶋江可被指遣候、

清次郎殿江無御吳義御指上可被成候、書状相添御遣シ

可成候、只今御調印御返可被成候、以上、

市兵衛

幸 兵衛殿

去ル寶永三戌年度當寺二千僧會供養節経堂

輪藏造営之大法事来子三月十五日ハ三七日之間

執行候二付、十方有縁之檀越施入志之輩
披露候二付願之通被 仰附候、以上、

附り大法事後十日之間為結縁寶物開帳、

右供養二付、當寺分諸勸進一切指出不申候、以上、
寛保三年亥十二月 法泉寺

(六紙)

右御高札横幅貳尺、豎三尺貳寸

奉願覚

一私寺経一切経藏

太守様御武威御長久、御尊牌並御先代様方

御位牌御先達被遊候、御前様方御位牌安置僧

御菩提奉弔候濫觴者、寶永三戌年長谷川

新右衛門様御郡御奉行御勤被遊候砌、七代前

住持秀圓一切経造営仕申候、右御経成滿仕候義、

偏二御國恩不淺難有奉存候二付、御國恩恐怖為

不仕、御先代様方御位牌並御先達被為遊候、

御前様方御位牌共一切経前二安置仕、御武威御長久

並二御先代様御菩提奉弔度趣奉願候處、

(七紙)

御上聞被為達候御趣二而、奉願通御免被為 仰附候

二付、難有顯密二宗之僧侶請待仕供養成就仕

難有奉存候、其後寛保三亥年坪内庄兵衛様

御郡御奉行御勤被遊候節、五代前之住持逢龍

経藏輪藏共建立成就仕、悉轉輪藏二奉納、

同子三月三七日之中任先例顯密二宗之僧侶

請待仕供養仕度旨願申上候處、是亦奉願通

被為仰附難有供養成滿仕、只今二至迄御國恩

為可奉報朝夕勤行無怠慢相勤來申候、右之趣郷中

寺院由緒書亦者申立等有之分ハ其品申上候様被仰付候節、

書附指上御座候、私寺之儀ハ京都西本願寺直末二而

本寺向寺格ハ宜敷御座候得共、於御國ハ御目見仕

候儀無御座候處、寺格相立不申候間、何卒御慈悲之上

(八紙)

右彼是被為遂聞古御目見直御支配被為 仰附被下候ハハ、

尚御國恩難有御尊牌御大切二安置仕度奉存候間、

奉願上通被為 仰附被為下候ハハ、難有可奉存候、以上、

板野郡齋田村

明和六年丑四月十九日

法泉寺

猪子勘之助様御與力

新見圓次兵衛殿

右之通當村法泉寺奉願上二付、私共御奥書仕

指上申候、以上、

齋田村庄屋

丑四月十九日

生見市兵衛

同村五人與

長右衛門

次五郎

伊右衛門

(九紙)

重右衛門

新左衛門

新見圓次兵衛様

右之通奉願上候處、紙面御受取ニ相成候得共、其後如何様共御下知無之等写ニ相成居候處、蜂須賀信濃様御後見蜂須賀兵部様・若殿貞之助様・信濃様御連枝芳之様・御二方様、安政五年丑三月鳴門御遊覽被為遊候御砌、當院御止宿被遊候而、當寺濫觴之儀御聞申上御先代様御尊牌當院ニ奉安置候而、朝夕勤行仕罷在候趣申上候處、御尊牌御拝被成度御趣ニ付、轉輪藏江御入被成、夫々御拝被為遊、當院ニおいてハ格別之御由緒へ茂有之哉卜而御尋ニ付、明和年中御郡御奉行

(一〇紙)

猪子勘之助様御在勤之節、郷中寺院由緒書指出候様御触達ニ相成、明和丑年由緒之義相認、何卒御目見直御支配等に茂被 仰付ニ為下候哉之旨奉願候処、紙面御受取ニ相成候得共、今以何之御下知茂無之、如何仕候義哉、當院之儀ハ京都本願寺直末ニ而本寺向寺格ハ宜敷候へ共、御国元ニ而者平寺院之御扱ニ而彼是不都合之儀多、迷惑仕居申候趣申趣申上候處、先々代分是迄之儀委敷相認指出可申哉之旨、被仰付候ニ付、委曲ニ相認候、右御屋江指出候處、於御屋敷ニ彼是御典作被為下、安政五年二月九日蜂須賀貞之助様御指図ニ而御役所江指出候處、御奉行服部丹藏様御手代當番吉本熊五郎殿左書横切以奉願候處、同役村田芳之助殿傳聞して奪取申聞候様由緒有之候、寺柄者武村杯之様ニ

(一一紙)

居り相附候、其余平寺院之儀ハ右様之儀、夫々自己ニ相拵申出候趣被申聞候ニ付、拙僧儀ハ他国出生ニ而昨今之儀ニ候得者、先代之儀、又外々寺院之趣杯ハ且以不存申候得共、當院記録ニ相基キ願上候儀ニ御座候、抑當院ニおいてハ寶永年中・寛保年中兩度御法事相勤候節ハ新町橋始七ヶ處高札御免被 仰付候、相勤候趣申延候處、建札之儀當御役場而已分申附候儀ニ無之御當職相貫候事ニ候得者、前々之写相添指出可申旨被申聞候ニ付、同年八月九日御役所當番村田道藏殿江右横切ニ記録之写、夫々相添指出候處、先御預り置ニ相成候旨、被下聞、且御郡代分茂篤与取調可指遣候様被仰附候趣被申聞候、乍併御武威御長久並御尊牌ケ様ニも可存候ニ而、御奉行分御配等ハ無之哉与被相尋候へ者、

(一二紙)

其儀ハ相心得不申趣相答候處、左候時者何以見居相立かたく旨被聞候ニ付、惣而諸願事御上分ケ様可致与之儀ハ誠ニ稀成御儀ニ而都而下分願立候趣甚相貫候得者、御聞届ニ相成候時者、是則被仰付候御儀与奉存候旨相答候、其節御役所へ指出候、左之通、

一 覚

拙寺之儀、寛永三戌年郡御奉行長谷川新右衛門様御在勤中一切経藏造営仕度段、先々代教圓儀奉願御聞届被 仰附候、就而者御國恩為冥加太守様御武威長久御祈願並御先々代様

御位牌安置仕御菩提奉申度旨是亦奉願通被
仰付、今以朝夕勤行無怠慢相動來難有仕合ニ奉存候、

(一二紙)

隨而其後寛保三亥年郡御奉行坪内庄兵衛様

御在勤之砌、経堂輪藏者夫々建立奉願成就之上

御尊牌悉轉輪藏江奉納、明曆四子三月三七日之中

任先例顯密二宗之僧侶請待仕供養仕度段

願之通御聞届被 仰付供養成満仕候儀ニ御座候、然處

明和六丑年郡御奉行猪子勘之助様御在勤之砌、郷中

寺院由緒書又ハ申立之筋合有之候得者、申上候様被

仰付候節、右件々之次第ヲ以拙院之儀京都西本願寺

御直末ニ而彼地ニおいてハ寺格御取扱向等之義格別

之事ニ候得者、御國元ニ而は、単寺院御取扱ニ付、他國兼合等ヲ

始、段々行當儀御座候ニ付、何卒右彼是之儀被為遂

聞召御慈悲之上、村役人支配相離相應之御結構被

仰附被為下候御道ハ御座有間敷哉之旨奉願上候處、

(一四紙)

紙面御受取、切々相成今以何之御下知茂無御座打受居申處、

天保八子年先住澄海儀、本寺合同宗諸願之儀

裁断役相承相手懸候砌何分寺格無御座候合自然

捌方迎々仕重々相歛居申懸、且亦前段

御先代様尊牌等奉安置御座候合

御國恩忘却不仕、旁乍恐奉拜度旨頼出候儀等折々

御座候ニ就而ハ、右等之節寺格等御結構被 仰付被下候へハ、

嚴重ニ相成、先々代之規模相立、重々難有仕合ニ

可奉存候ニ付、何分ニ茂御道茂御座候得者、前顯之運
ニ為聞召届可然御評議之程奉願上候、以上、

板野郡齋田村

午八月

法泉寺

(一五紙)

萬延元酉三月廿二日御郡代服部氏御病死ニ付、當時

御受持赤川三郎長衛門様・稲田武太郎様・村田道藏殿

當番ニ而被聞候者、先達合被願出候御武運御長久之

祈念並ニ御尊牌御法事相勤朝夕勤行仕來候ニ付、

直支配被 仰附度旨願出候心底者如何ニ御座候哉之旨

願尋候ニ付、拙僧心得方ニおいてハ相應之御結構茂被

仰附候得者

御武運御長久之御札並ニ

御尊牌嚴重ニ相成候哉ニ奉存候、且者私御先々代秀圓

逢龍規増茂相立候様奉存候旨相究候處、先達之

横切ニ御道茂御座候ハハ与相認有之候得共、赤川三郎左衛門様

御評議被成候得者、御道ハ無之趣被申聞候ニ付、拙僧相覚

候者一向ニ御道之無之御儀ニ候得者、猪子勘之助様

(一六紙)

御在勤之節指上候紙面當座ニ御指下可被成御儀ト

奉存候、隨而此度御窺候横切之儀茂最早三ヶ年ニも

相成候儀ニ御座候、寺社御兼帯之赤川三郎左衛門様

只今ニ相至一向御道之無御座様被仰候而ハ不存候、乍去上江對シ

可申上儀ニ而者無之候得者、只道無之ト被仰聞候時ハ詮方も

無御座仕合与相答候處、道藏殿暫時留座仕候、今當座ニ

ケ様共難申上候得者、尚明日篤卜思慮仕、明後日御究可申上様被仰聞候二付、指凶之日限御役所へ罷出、隣寺祖師忌勤之嘆願仕候處満座次第可罷出様被仰聞相仕舞其後不快二付長善寺相願横切ヲ以不快御断申上候尚亦其後村方〆紙面ヲ以不快断申上候處、十月六日御仕出御状左書村方〆到来

(一七紙)

其村法泉寺御用候条役人共召連来候而朝五半時

御郡代處へ可罷出候、以上、

赤川右次郎

十月六日

斎田村庄屋

岡田兵三郎方江

尚以法泉寺儀病氣二候共、取繕せ、是非召連可罷出候を右供通二付、十月九日出府之上、不快二付御断申上候、翌日休日十一日

御公儀御法事二付、休日、同月十二日請下成候、

奉申上覚

去ル午年横切ヲ以奉願上候紙面篤与恩恵仕下候處、當春祖師忌修行与志紙二相認御尊牌御法事相勤申度旨奉願上候得共、前段之願紙面指障二相成

(一八紙)

候様存候旨間、依之横切紙面請下御聞届披下候ハハ、難有仕合ニ奉存候ハ乍併御法事之紙面茂最早期茂相立候、旁追而月日相定年柄寺相応之事ニ相勤申度候間、奉願上候節、何卒其節宜敷御聞届被仰附被下度候得者、重畳難有仕合ニ奉存候、乍恐横切ヲ以此段奉願上候、以上、

十月

法泉寺

村田道藏様

右之趣指出候處、御受取ニ相成不申、尚篤卜恩恵仕相認可指出旨被申聞候二付、尚亦左書之通指上候、

奉申上覚

一拙寺儀當春祖師忌執行度趣奉願上候節、右修行

(二〇紙)

後先例茂御座候、旁當院奉安置御座候様三方様

御尊牌御菩提奉申度旨一紙ニ仕奉願上候處、祖師忌

之儀ハ相定候儀御法事之儀ハ格別之儀ニ候処、

一紙ヲ以奉願上候二付、御下知被難被仰付哉ニ奉存候二付、

祖師忌之儀而已別紙ニ相認奉願上通被 仰附

祖師忌之儀難有相勤候儀ニ御座候、随而御菩提

奉申度儀者先々代秀圓・逢龍二代在仕候御、

顯密二宗之僧侶老千人請待仕三七日之間、御法事

修行仕候砌ハ端々迄茂

御尊牌奉安置候儀伝来仕候儀哉格別嚴重之

寺柄ニ御座候處、数年之星霜ヲ経候ニ随、近年別而

不嚴重罷成

御尊牌奉安置候様之儀無之、誠ニ重々恐多く具秀圓

(二一紙)

逢龍彼是表裏仕候、規僧相覚候ニ相通、重々歎ケ敷朝暮
此儀而已心痛仕罷在候得共、如何様共可仕方便無之、且ハ近年
打続世柄茂不宜敷候ニ付、他力等ハ少シ茂相頼不申、自力ヲ以
乍聊

御國恩為冥加御法事相勤候ニおいてハ檀家最寄之
者共端之承知仕候様罷成候ニおいてハ

御尊牌靈前不嚴重ニ無之様相成、先々代苦勞

仕候、規僧相貫存念ニ茂相叶可申哉与奉存候得者、當年之

儀者最早年末ニ茂相至候事故、明春月日相定奉願

度奉存候間、可燃御聞置被下候得者、重々難有仕合ニ奉存候、

且先年猪子勘之助様御在勤之御砌、

由緒有之候寺院之儀ハ其趣申出候様壹枚御觸達ニ

相成候節、當院濫觴之儀ハ浄土真宗ニ而尾張之

(二二紙)

國二年久敷罷在、天正初年之頃祐教在任之節、

播州龍野江轉院仕、皆亦慶長拾八丑年當

御國許江罷越、興嶋山智伯院法泉寺与御建立

被仰付候以来之儀相認、何卒相応之御結構茂

被仰附ニ為下候得者、重々難有旨、乍併寛永度出欠

之砌、跡書物夫々焼失仕、何等之儀茂居而申上兼候旨

奉願上候紙面御受取ニ相成、其俣相流居申候ニ付、

右委曲横切ヲ以御階談被 仰附被為下候御道者

御座有間敷哉之旨去ル午御内奉窺候處、重々

御評議被 仰付被為下候得共、御結構筋坏之儀ハ

聊以御道ハ難被為在旨被 仰付候御砌、彼是御重

向ニ相及候處、重々御教諭被 仰附奉感掛候間、

午年奉窺候、横切當言奉願上候紙面壹通共何卒

(二三紙)

御指下被 仰付被為下候得者、重ねて難有仕合ニ奉存候、

依而此段乍恐書附ヲ以奉願上候、以上、

板野郡齋田村

法泉寺

萬延元年申年十月

板野・勝浦

御郡代様御手代

村田道藏殿

右紙面役人添ニ而御役所江指出候處、御郡代様御用繁ニ付、

長文之紙面ニ而御披見被成候御段無之趣ニ而者其俣

御指戻被成候旨隨而、道藏殿ハ左書案文之通相認

指出候様被聞候ニ付、横切ヲ以指上可申哉与相尋候處、

村役人參り合居候事、所五人與耆人ニ而も奥書為仕

(二四紙)

可指出旨被聞ニ付、右任指図二十二日横切並紙面共請下

ニ相成候、

奉申上寛

當院之儀去ル寛永年中郡御奉行長谷川新右衛門様

御在勤中線先住秀圓代中

太守様御武運長久

御先々代様御位牌安置仕候儀奉願御聞届

成候御趣、當院ニ筆記御座候、其後明和年中

寺格御引立被 仰付度旨奉願候得共、右以来何之被

仰附茂無御座相流居申候、然ニ前段之通

御尊牌安置仕候様被 仰付候、寺之儀ニ付是迄ハ

村役人支配之単寺院ニ御座候得共、何卒寺繕御引立

村役人支配相離候様被 仰附度旨、去ル午年八月

(二五紙)

奉願上候處、右

御位牌安置仕候運、當御役所様ニ御筆記無御座、

然ニ前躰之趣意申立、寺格御引立被 仰付度旨

願出候段、別而不都合ニ而御評議之道無御座趣、重々

御理解被 仰聞候、篤与思慮仕候處、御役所様

御筆記無御座候儀、當院ニ茂御役所様分之

御配状等茂無御座處、寺格御取扱向之儀被願候段、

□得□^三而□□へ申上様茂無御座候、依之去ル午年八月ニ奉

御座候横切並^二當春奉願候御紙面共御指下被

□□奉願上候、以上、

板野郡齋田村

法泉寺

万延元申年十月

〔付記〕

本史料紹介を成稿するにあたって、所有者である法泉寺様には深甚の謝意を表します。とりわけ、御住職様並びに御家族様には種々ご便宜を図っていただきました。ありがとうございました。

なお、本稿は科学研究費補助金基盤研究(A) (19H00529) [二〇一九-

二〇二三年度]「地方基幹寺院に於ける文献史料調査と経感ネットワークの研究」(研究代表者 中山一麿)の成果の一部を含んでいます。

(四国大学文学部日本文学科日本文化史・博物館学研究室 教授)